教育センター通信

ほど
火床の火の心を紡ぐ

第６号（通算７８号）
令和２年 10 月 28 日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

三条嵐南学園

10 月 23 日　重点教科研修における公開授業の様子（４年「小数のひき算」）

幸せの土台となる「自己肯定感」

小中一貫教育推進課　指導主事　相田　覚

「自己肯定感」は、教育の分野でもいろいろな場面で用いられる言葉です。1994 年に高垣忠一郎氏がこの言葉を提唱し、そこから広まったと最近知りました。確かに、私が新採用の頃は、この言葉を聞いたことはありませんでした。

自己肯定感とは「自分は大切な人間だ」「自分は生きているだけで価値がある」という感覚のようなものです。自己肯定感が高い人は、「自分は何だってできる」と考えるので、「いろいろなことにチャレンジしたい」「どんどん幸せになりたい」「成長したい」と意欲の好循環が起こります。一方で、自己肯定感が低い人は、何かを達成しても「今回うまくいったけど、次はだめかもしれない」「他の人はもっとうまくやっているのではないか。それと比べると、自分はだめだ」と考えてしまい、いつまでたっても幸せを感じることができない悪循環に陥ります。

20 年前、私が三条市立中学校に勤務していた時のことです。学校現場で奮闘している私たち教員に対して、当時の教育長はいつも次のことをお話されました。「学校では、子どもたちに多くの自信を付けてやってください。やればできると思っている子はどんどんチャレンジし、成長していきます。しかし、『どうせ自分なんか・・・』と思っている子どもの指導がどれだけ難しいか、先生方が一番御存知のはずです。子どもたちを誉め、そっと背中を押してやってください」。当時、子どもの指導や学級経営に悩んでいた私の心にぐっとくる言葉でした。そして、強く励まされたことを覚えています。

秋は、勉強や芸術、スポーツなどいろいろなことに取り組みやすい季節です。この原稿を書いている今日は、保健体育（サッカー）の授業を参観してきました。そこでは、若い先生が子どもを励まし、意欲的な動きに賞賛を与えていました。子どもたちが生き生きとした表情で、難しいプレーにチャレンジしていたのが印象的でした。

大崎学園

１～６年生は 10 月３日の前期課程体育祭で､「応援うちわ」を使いました。デザインは、後期課程体育祭でパネルにデザインされたキャラクターを使っています。実行委員会の生徒たちが、「分離開催となっても学園生が同じ行事をしている」「つながっている気持ちがもてる」ようにと発案しました。また、１・２年生には厚紙を切ってうちわに貼る作業が難しいと考え、有志を募り、ボランティアとして手伝いました。これらの活動アイデアは、一昨年の「大崎アート」、昨年の「パプリカダンス」の前期・後期の交流活動が継承・応用されてきているものです。

瑞穂学園

瑞穂学園の学園運営協議会では、児童生徒の健全育成を目指して、自治会等の協力を得ながら交通安全指導と挨拶運動を行っています。指導を行う日を同一にし、瑞穂学園が一体となって活動をしました。地域の方から見守られ、大切にされていることを感じて育つ子どもたちは、地域への愛着を深めていきます。学園ののぼり旗も遠くから見て目立ち、注意喚起の役に立っていました。

一ノ木戸ポプラ学園

10 月８日に「リトルティーチャー活動」が実施されました。小学１年生の「あさがおリースづくり」に中学２年生がお手伝い。一緒に支柱に絡まった蔓を外し､リースを完成させました｡優しい声掛けをしてくれたお兄さんお姉さんのおかげで､緊張していた１年生も、いつの間にか笑顔いっぱい。自分を頼りにしている１年生の期待に応えようと､最後まで笑顔を絶やさなかった中学２年生｡温かい時間が流れました。

四つ葉学園

９月に学園内の小学校３校の６年生の交流会として、合同の陸上練習会が行われました。アイスブレイキングで緊張をほぐした後、中学校教諭による陸上指導が行われました。参加した子どもたちは、クラウチングスタートの練習などに取り組みました。短い時間でしたが、来年、中学校で共に学ぶ仲間との交流や、中学校の体育授業をイメージする機会となりました。中学校への進学を楽しみにしてくれることを願っています。

三条おおじま学園

半年間収集したペットボトルキャップを中学校の環境委員長と副委員長が業者に届けました。収集量に応じて、CO2 の抑制やポリオワクチンにつながることを中学生は学んでいます。今後も、おおじま学園として、小学校と連携してペットボトルキャップの収集を行います。SDGs の取組を通して持続可能な社会について考え、自分たちの活動に「その先」があることを実感し、社会や世界とのつながりを学んでほしいと思います。

三条学園

☛上林小
精一杯走ってゴールしました。

裏館小☛
各軍が一丸となり応援合戦をしました。

10 月 3 日に上林小学校で、17 日に裏館小学校で運動会が行われました。例年、第三中学校の生徒が運営ボランティアで参加しており、本年度は上林小学校に参加しました。両校とも感染症防止対策をとりながら、元気いっぱいに競技と応援に取り組んでいました。秋のよい一日となったことと思います。

しただの郷学園

9 月 10 日、11 日に 1 泊 2 日の日程で「しただの郷学園修学旅行」を実施しました。長沢小、笹岡小、大浦小、森町小、飯田小の 5 校の小学生 67 人の児童全員が参加し、学校を超えたメンバーで活動や宿泊をし、佐渡を満喫してきました。フェリーで潮風や海を体感したり、佐渡の文化的・歴史的遺産や自然の魅力をたっぷりと感じたりすることができました。ふるさと「下田」の良さも再認識し、しただの郷学園の友情の輪も広がる修学旅行になりました。

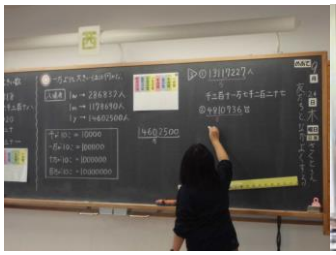
さかえ学園

10 月 7 日（水）にフラワーロード活動が行われました。地域・保護者の方々からも御協力いただき、水仙の球根を植えていました。昨年度植えたところから更に延長をしています。子どもたちは、地域の方から声をかけてもらったり、お互いに協力したりしながら、楽しそうに活動をしていました。1000 球以上の球根を植えたとのことです。長く地域の人の目を楽しませ、子どもたちの心に残るものとなるでしょう。

～嵐南小学校・若嵐研～

嵐南小学校には、若手嵐南小研修会(若嵐研=わからんけん)があります。多くの学校で採用一校目、二校目の若手の教職員が増えています。若手の教職員にとって、今年は特に、先の見えない不安な毎日を送っているのではないでしょうか。そんな不安を解消する良い取組です。

先日、その若嵐研のオーダーメイド訪問で、授業以外の日々の学校生活の大切さのお話をしました。まず、教室環境の整備や人間関係の改善に注目して、日々の生活のリズムを作り、子どもが毎日、「学校に行くのが楽しい」と思える学級づくりを目指しましょう。そのためには、分かりやすい指示や説明と温かい言葉掛けが大切です。シンプルイズベスト。



〈計画された板書〉

〈余計なものが一切ない黒板〉

〈合わせやすい机の目印〉

嵐南小学校の若手教職員が、若嵐研の研修を通して、大きく成長している様子がうかがえます。どの学級の授業でも学習問題◎が設定され、子どもの意欲を引き出す教師の言葉掛けや活発な子ども同士の話合いが行われていました。これからの若手教職員のさらなる成長に大きな期待をもった研修でした。

～教育センターオーダーメイド訪問紹介～

栄北小学校１年生

月岡小学校６年生

10 月から、オーダーメイド訪問が増えてきました。

どの学校でも、今年度導入した「三条市授業スタンダード」を意識した授業に積極的に取り組んでいただいています。

栄北小学校では、１年生の算数科の授業を参観しました。担任が、子どもたちの話をじっくりと聞き、１年生の言葉で学習問題を設定していました。急がず、子どもの言葉を待って学習問題を設定しようとする担任の待ちの姿勢が素晴らしかったです。

月岡小学校では算数科の学習を６年生２クラスとも参観しました。対話が自然な流れで、タイミングよく行われていました。タブレットで撮影したワークシートを電子黒板に映して話し合わせたり、「仲間と力を合わせて解決したい」と考えるタイミングでの班の対話を設定したり、教師の支援が光る授業でした。

授業では、児童生徒の声を聞こうとする教師の姿勢が大切だと考えます。今回のオーダーメイド訪問では、そうした教師の姿勢や熱意が伝わってきました。